



学校そのものの在り方を提案する機会に～公開研究協議会Ⅰ～

10月4日(金)に今年度最初の公開研究協議会Ⅰを実施しました。県内外から多くの参加者をお迎えしての公開研でした。子どもたちが「のびのび きびきび わくわく」学んでいる姿が、提示した8授業の全てで見ることができました。

昨年度から、本校の公開研究協議会は、県内外に最先端の実践・研究の成果を発信するだけでなく、「これからの学校の在り方そのもの」を提案することにも注力しています。これからの学校が大切にしていきたいことを、「#生活のドラマと学びのドラマを紡いで授業をつくる教師の資質向上、#若手教員の育成に資する校内研修デザイン、#多様性理解につながる授業づくり、#生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムマネジメント、#ICTを活用した個別最適で協働的な学び」という5項目に特化して提案し、ご参加くださった方々に、授業のどこに、どのようなかたちで、日々の取組が根付いているかということを見ていただくようにしています。

参加者アンケートの結果から、本校のメッセージが確実に参加した方々に届いたと感じたことが多々ありました。数例紹介します。

- ・3年生の特別活動では、自分たちで学級会を行う姿に感動しました。子どもたちが役割を全うしながら、協力して話し合い活動を進めていく姿が素晴らしかったです。子どもたちに任せきりでなく、随所で教師がさりげなく支援し、話し合い活動が有意義なものになるようにコントロールされており、とても勉強になりました。
- ・3年生の外国語活動では、特にひとつのことに集中して取り組む姿が印象的でした。目の前のことに没頭して取り組む姿を目指し、自身の授業も工夫していきたいと意欲が高まりました。
- ・1年生の国語では、子どもが体験する中で生じた困り感を解消するために、試行錯誤しながら協働で学ぶことができるように場の工夫を考えることを特に意識しながら自分自身の授業改善につなげていきたいと思いました。
- ・5年生の社会科では、ゲーミフィケーションを取り入れた、子どもにとってワクワク感のある授業となっていました。必要感をもちながら情報を収集・整理・活用できるという点で、楽しみながらしっかりと学びにつながる授業となっていました。

紹介した以外の感想も含めて、どの方々も、自主自律の精神に溢れた子どもたちの成長ぶり、子どもの試行錯誤を温かく確かな手立てで見取り支える教師の姿に言及されていました。

2年生の生活科の授業では、お米の収穫祭でお化け屋敷を運営する子どもが、「呪い」という不穏な文字を書いていました。「お米を粗末にしたり残したりしたことに対する呪い」なのだそうです。一見不適切に見える言動に、自分たちが育てたものへの愛着がうかがえるエピソードでした。

4年生の総合的な学習の時間では、子どもたちの日常に溢れる「受け入れられる・受け入れられない」人の様々な特徴について分類・整理する中で、「先生は実際のところどうなの？この子は苦手ってあるんじゃないの？」と問い詰められて授業者が苦笑する場面がありました。子どもが自由に本音を語り合える場ができていたことを感じました。



5年生の音楽科の授業では、民謡歌手と奏者の方々の本物の熱気に触れて、普段の合唱では苦手意識を感じていた子どもたちが、合唱とは違った魅力に目覚める姿を実現することができました。

6年生の総合的な学習の時間では、下級生に活動への理解と協力を求めるポスターに「自分の意見も実現できるんだっていうことに希望をもってほしい」という記述がありました。まさにそのことを実現し実感してきた6年生が、学校の伝統と文化を継承する喜びに浸ることができているからこそその言葉だと感じました。



このような学校の取組を見たある参観者は、「いつの間にか私自身が『こうしなければならない』と思い込んでいたことの殻を破ってくださった驚きと感動がありました。」という感想を寄せてくださいました。日々教育現場にいらっしゃる方でさえ既成の考え方を揺さぶられる提案となっていたようです。

当日の運営にご協力くださった保護者の皆様に、次の参加者コメントをお贈りして御礼に代えさせていただきます。12月2日（月）の公開研究協議会Ⅱでもどうぞよろしくお願いいたします。

保護者の協力も含め、学校が一体となって取り組んでいる様子が伝わってきました。すべてにおいて参考になる公開研究協議会でした。

4年部に新たに高橋想奈先生着任されました

10月3日付けで、4年部に高橋想奈（たかはし そうな）先生が着任されました。来春、県内の小学校で正規教員として採用が決まっている、教職大学院2年次の院生です。着任早々、4年生の社会科専科として、子どもたちに楽しい授業をしてくださっています。よろしくお願いいたします。

